

令和3年度 東京都内湾水生生物調査 10月稚魚調査 速報

●実施状況

令和3年10月6日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は28.2～30.2℃であった。調査地点の風は1.5～4.8m/s、お台場海浜公園と城南大橋では北寄り、葛西人工渚では東であった。調査当日は大潮で、干潮は10時54分、満潮は16時58分であった(気象庁のデータ)。

全地点でハゼ科の仔稚魚が採取された。ニホンイサザアミが多く採取され、特に葛西人工渚においてはニホンイサザアミがほとんどを占めた。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	9:03-10:34	10:53-12:03	13:03-14:40
水温(°C)	23.2	25.3	26.1
塩分(-)	19.6	20.0	19.2
透視度(cm)	51.5	39.5	31.5
DO(mg/L)	5.9	5.9	7.0
DO飽和度(%)	77.0	80.8	96.2
波浪(m)	0.1	0.3	0.2
pH(-)	7.6	7.5	7.9
水の臭気	無臭	弱下水臭	無臭
備考		調査時には干潟が干出していた。	

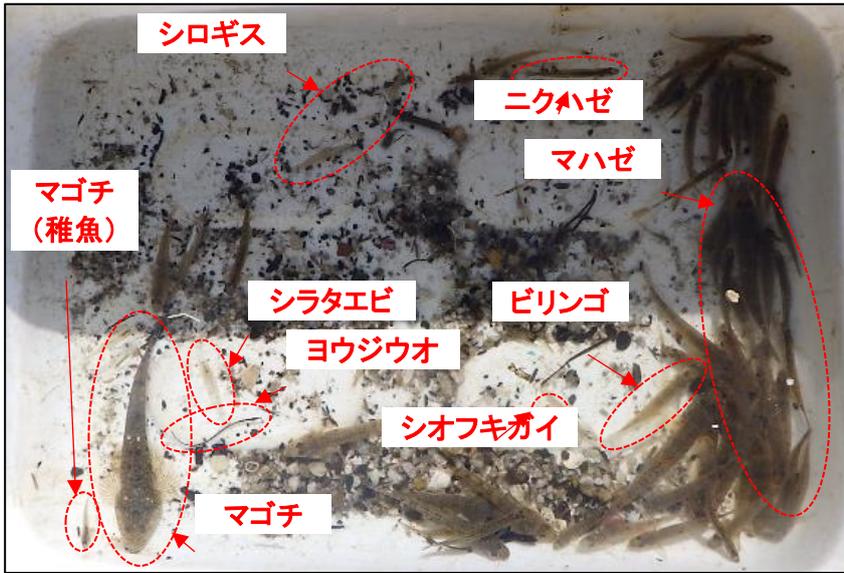
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ(c)	ヒイラギ(c)	ハゼ科仔魚(c)
	ビリンゴ(+)	ハゼ科稚魚(+)	アシシロハゼ(+)
	アシシロハゼ(+)	シロギス(r)	
	ニクハゼ(+)	マゴチ(r)	
	シロギス(+)	マハゼ(r)	
魚類以外	ニホンイサザアミ(+)	ニホンイサザアミ(m)	ニホンイサザアミ(G)
	エビジャコ属(r)	エビジャコ属(+)	エビジャコ属(r)
	シオフキガイ(r)		シラタエビ(r)
備考	上記の他、マゴチ稚魚、ハゼ科仔魚が確認された。		ニホンイサザアミが大量に入網した。

注) 表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園 採取試料



水際数メートルで急に深くなる大の渚。

●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深い場所へと移動する。



静穏な海域を好む。胸部周辺にその名の通り肉のようなピンク色を呈する。



3～5 月に大量発生する。稚魚は成長するにつれて河川上流側に移動する。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣に産卵する。



●東京湾では、湾奥から外湾にかけての砂浜海岸などで多くみられる。稚魚は動物プランクトンやアミ類を食べて成長する。警戒心が強く、危険を感じると砂に潜る習性がある。産卵期は5～10月。

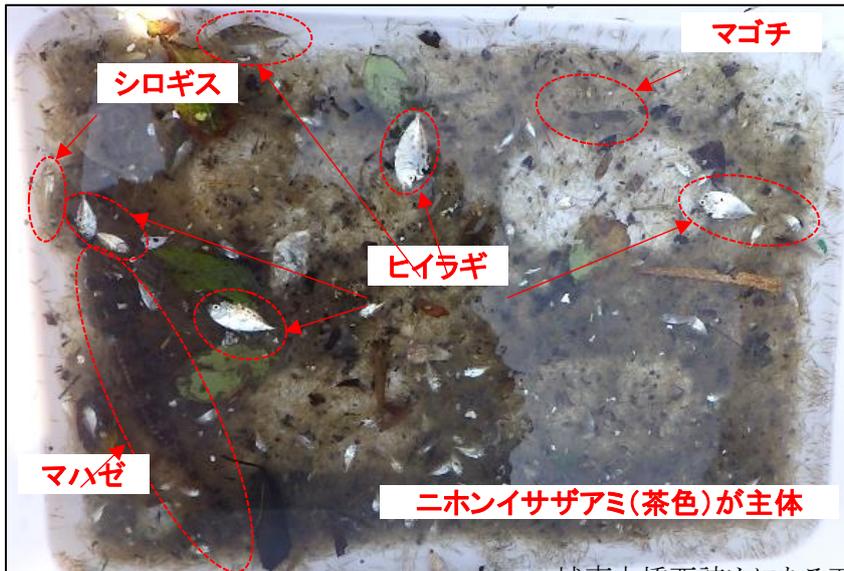


ヨウジウオ科魚類では、東京湾で最も普通にみられる種。湾奥から外湾にかけてのアマモ場で多くみられる。全長 30cm 程度になるが、本調査では 10cm を越える大きな個体が採れることはまれ。



殻長 5cm 程になる。内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻の色は、白色から紫褐色まで変異が多い。

城南大橋 採取試料



調査地点の様子



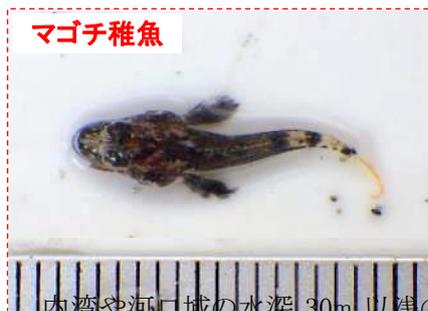
調査の様子

城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

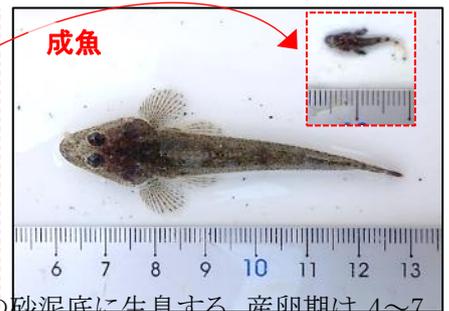
●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



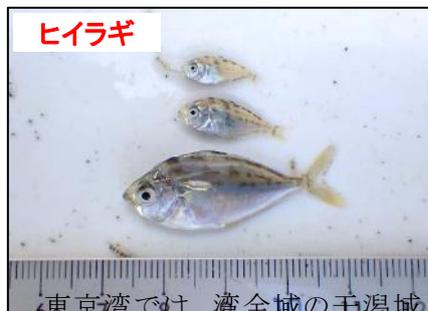
になる。内湾や河口干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色にそっくりである。今回、体長 15mm 程の稚魚が採取された。



内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は 4~7 月。稚魚は干潟や人工海浜、砂浜等の浅いところでみられるが、成長するにつれて、徐々に深場へと移動する。今回、マゴチの稚魚はお台場海浜公園でも確認された。



*解説はお台場海浜公園を参照。

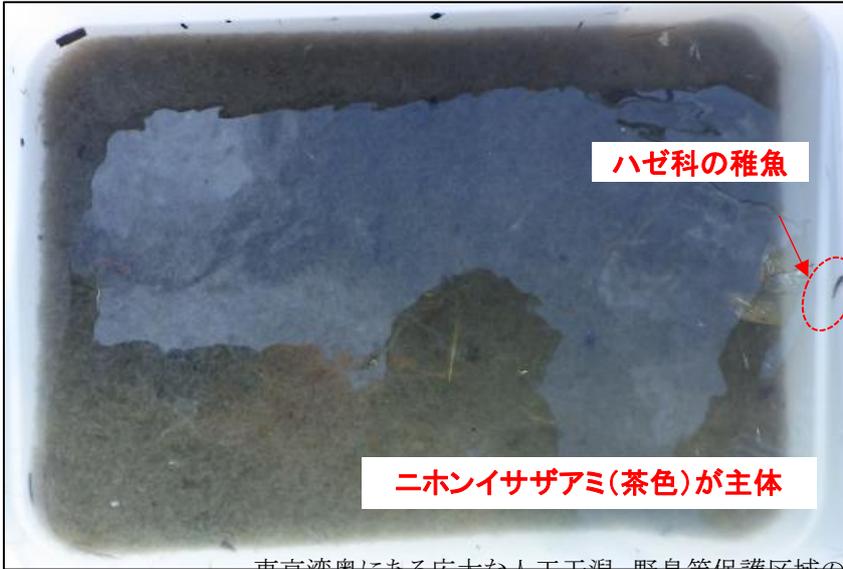


東京湾では、湾全域の干潟域や漁港等でみられる。干潟域には、体長 6~7mm 程の稚魚が 6~8 月にかけて来遊し、動物プランクトンを食べて成長する。



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体のわりに獷猛で、稚魚等を捕食することが知られている。

葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

※写真のスケール 1 目盛:1mm



着床前のハゼ科の稚魚は腹部に浮力調整のための油球があることが特徴である。



マハゼに似るが、体側にゴマ模様がある点で識別できる。成熟した個体には、体側に白い横縞状の模様が現れる。成長すると同属のマハゼの稚魚を多く捕食する。



ニホンイサザアミは汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌となる。今回、本地点では1kg程採取された。



青い触角が特徴のエビ。額角の基部が盛り上がることで、スジエビ類と区別ができる。汽水域を主な生息場とし、干潟にもよく出現する。成熟した個体では、体側に青色斑が現れることが多い。



成長すると甲幅3cm程になるカニで、ハサミの関節部に毛の房(ふさ)がある。転石等の隙間に生息する。



調査地点である葛西人工渚(東なぎさ)はラムサール条約湿地に登録されている。調査時にもたくさんの野鳥がみられた。